

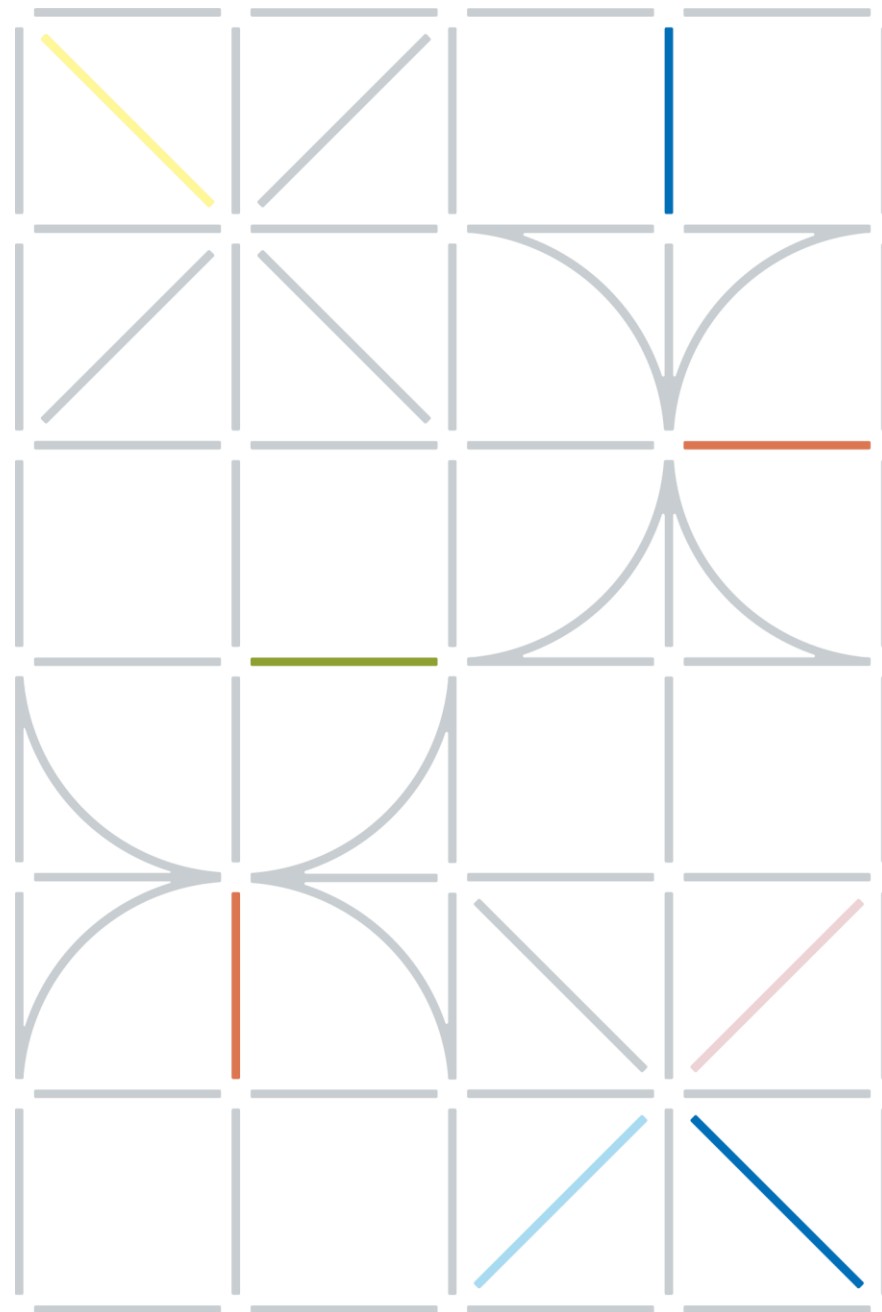


2025年3月期第1四半期

決算説明資料

gooddays ホールディングス株式会社 | 4437

2024年8月14日



01	2025年3月期第1四半期連結業績実績	P.03
02	2025年3月期注力事業の方針と実績	P.10
03	2025年3月期連結業績予想	P.26
04	2025年3月期事業方針	P.28
05	Appendix	P.33

01

2025年3月期第1四半期連結業績実績

- 連結業績前期比較
- 連結売上高 / 営業利益推移
- セグメント別売上構成比
- ITセグメント_売上 / 利益推移
- 暮らしセグメント_売上 / 利益推移
- 「標準化サービスビジネス」の売上前期比較

売上高及び営業利益以下各利益において前期比増

ストック型ビジネス（Redxサービスビジネス、goodroomソリューションビジネス）への投資を強化・継続しつつ

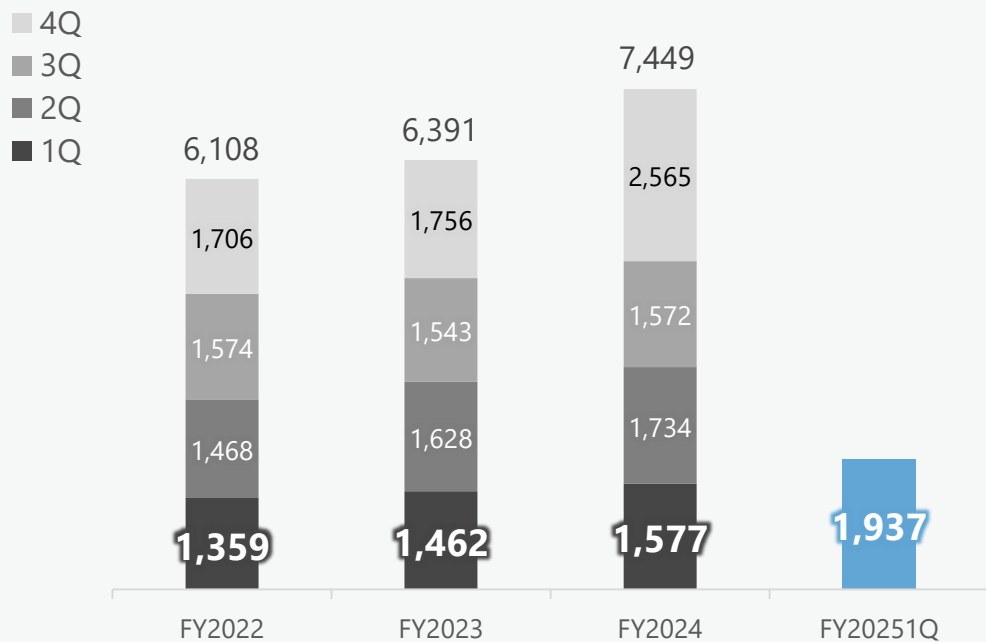
売上高（前期比359百万円増）及び営業利益（前期比33百万円増）共に前期比増

	2024年3月期 1Q実績	2025年3月期 1Q実績	対前期 増減額
(単位：百万円)			
売上高	1,577	1,937	+359
売上総利益	425	459	+34
販売管理費	373	373	+0
営業利益	52	86	+33
経常利益	53	76	+23
親会社株主に帰属する四半期純利益	31	54	+23

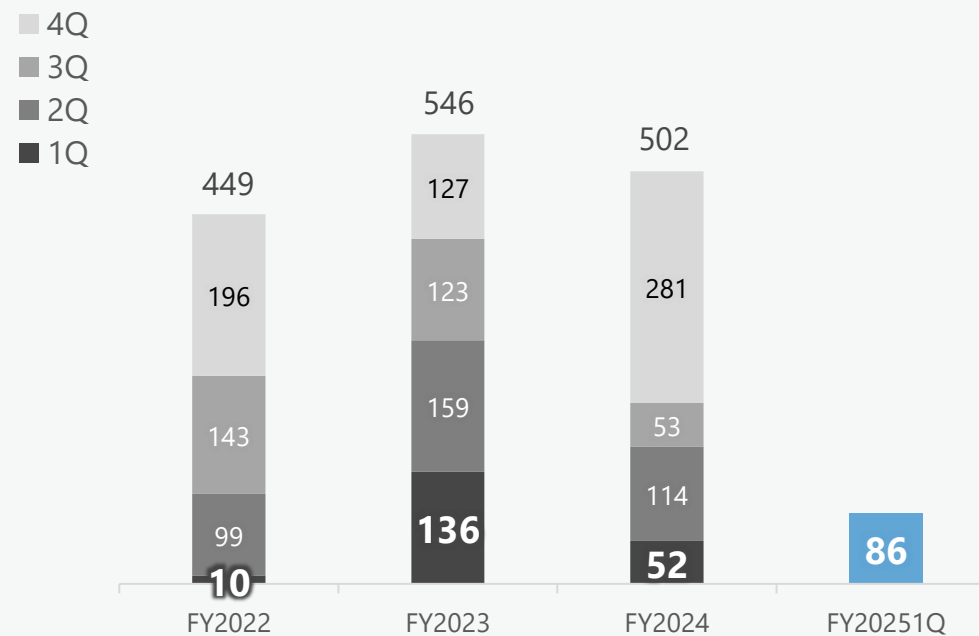
第1四半期の売上高は年平均成長率12.5%増で推移

営業利益は下期偏重のトレンドは継続見込みであるが、ストック型ビジネス主体への取組みを継続し平準化を図りつつビジネスを展開

売上高 (単位：百万円)

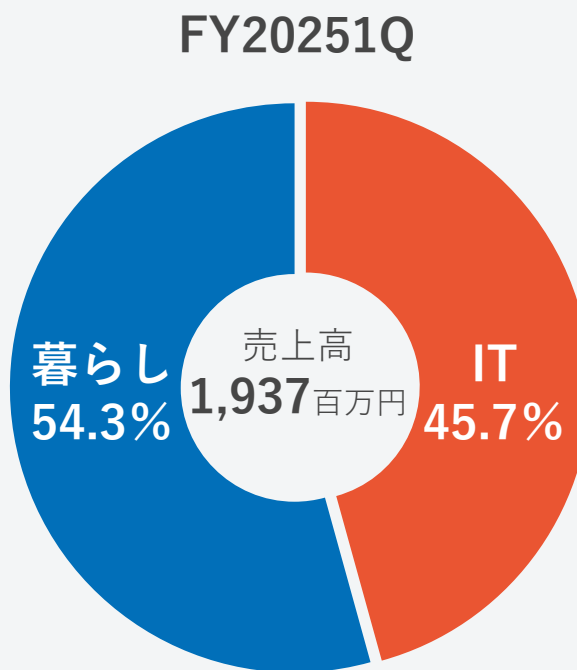
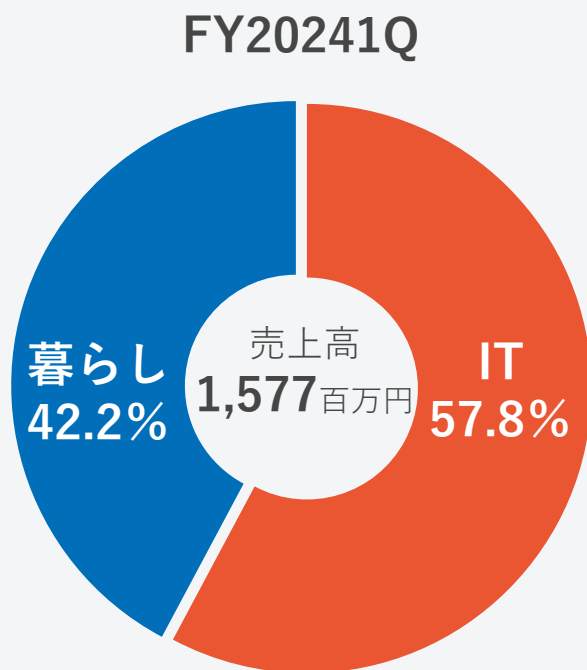


営業利益 (単位：百万円)



暮らしセグメントは、リノベーション大型案件
 (goodroomソリューションビジネス/リノベーションビジネス) 進捗で前期比57.9%増

セグメント別売上構成比



内訳

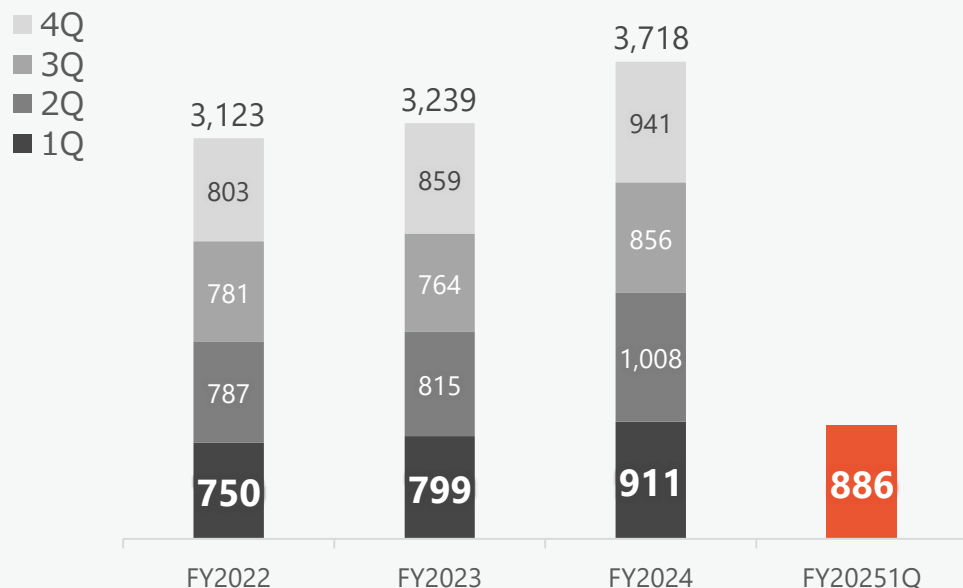


※小数点以下第2位を四捨五入して算出しております

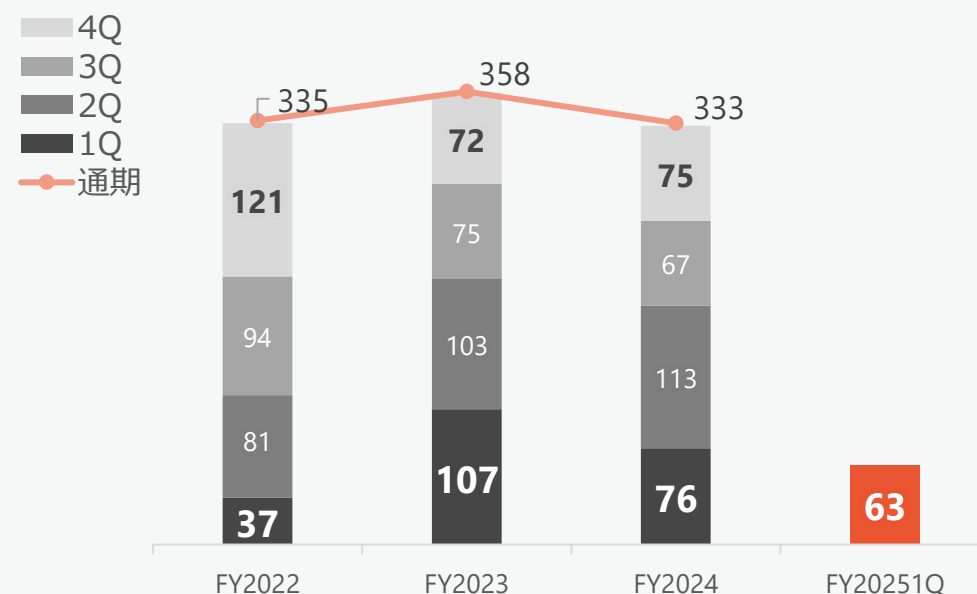
ITセグメント全体としてRedxサービスビジネスの先行投資を従来ビジネスで補完出来ず 売上高及びセグメント利益とも横ばい

Redxサービスビジネス：3つのビジネスグループ（専門店／アパレル、百貨店標準、商業施設向けRedx-NEW PORT（モバイルオーダー）
開発継続中のため投資先行。ユーザーソリューションビジネス：流通小売含めて、金融機関の大型案件の収束で保守フェーズ移行

売上高（単位：百万円）



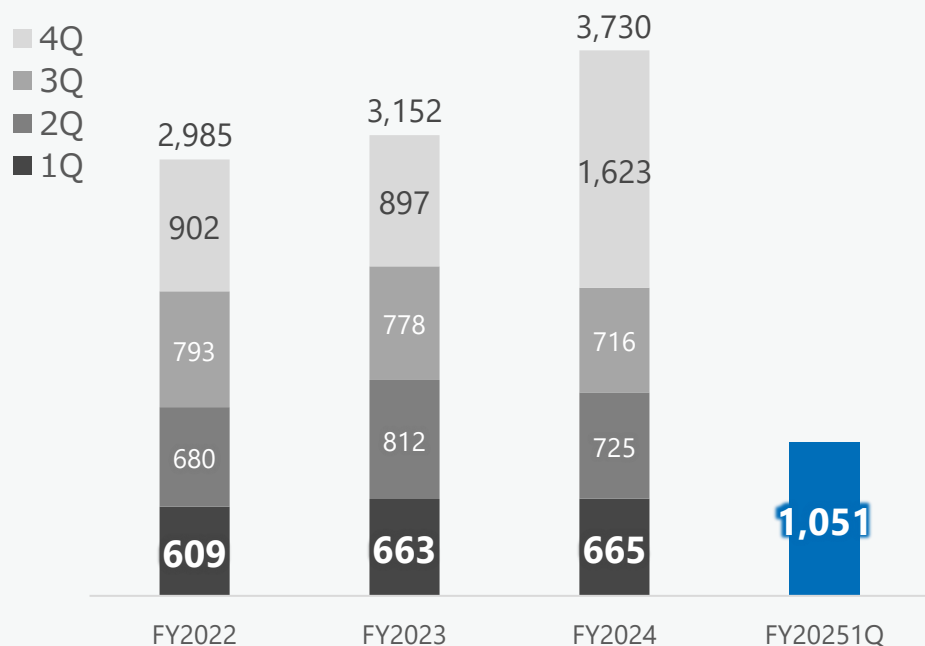
セグメント利益（単位：百万円）



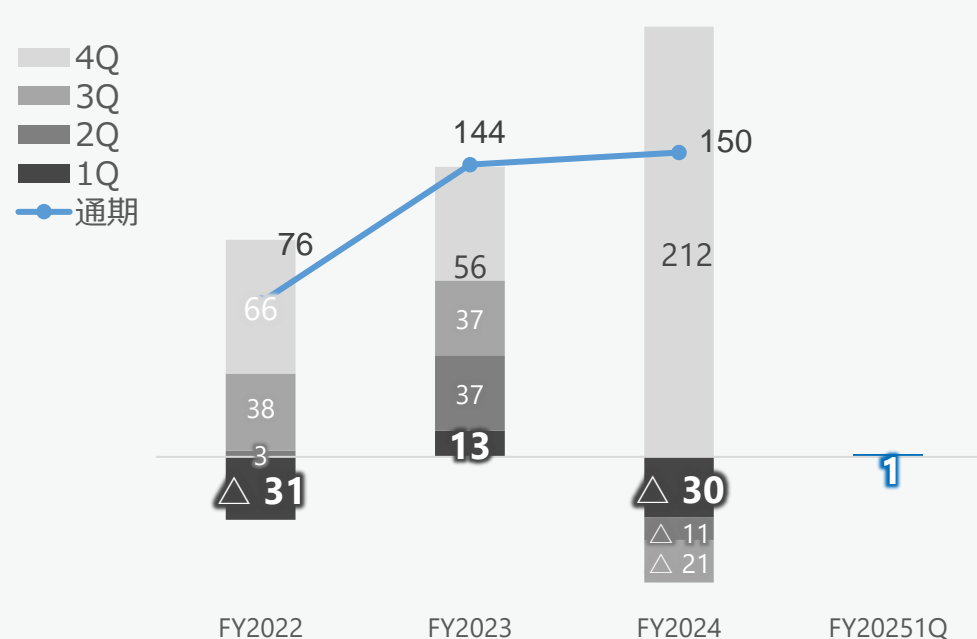
暮らしセグメント全体として、現時点ではgoodroomソリューションビジネスの投資先行をリノベーションビジネスが補う状況

リノベーション大型案件受注（請負型、投資受託型）で売上高増、投資先行でセグメント利益にはインパクト

売上高（単位：百万円）

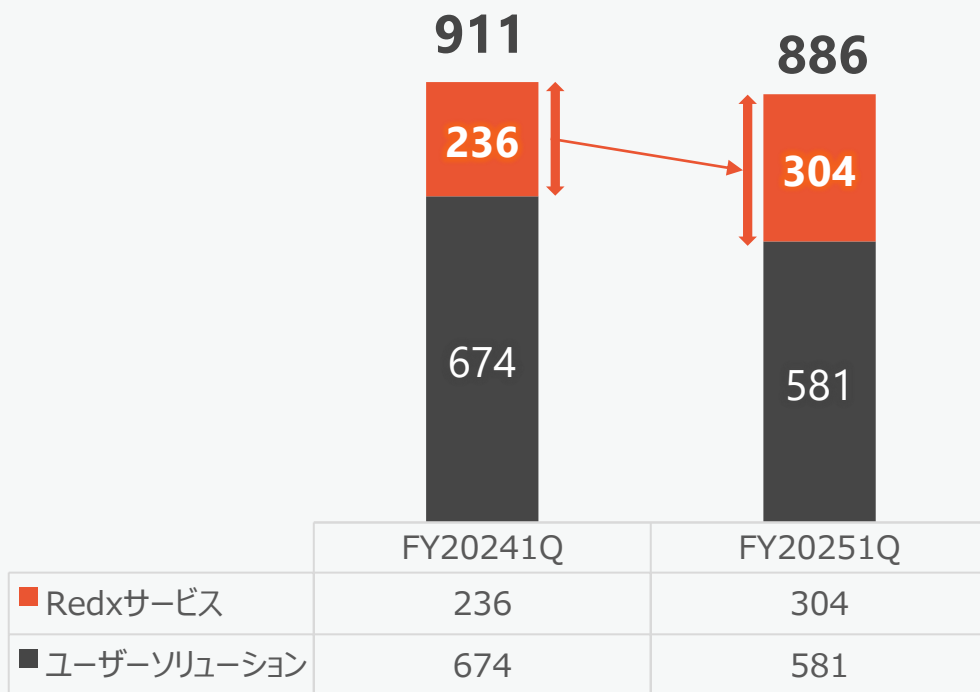


セグメント利益（単位：百万円）

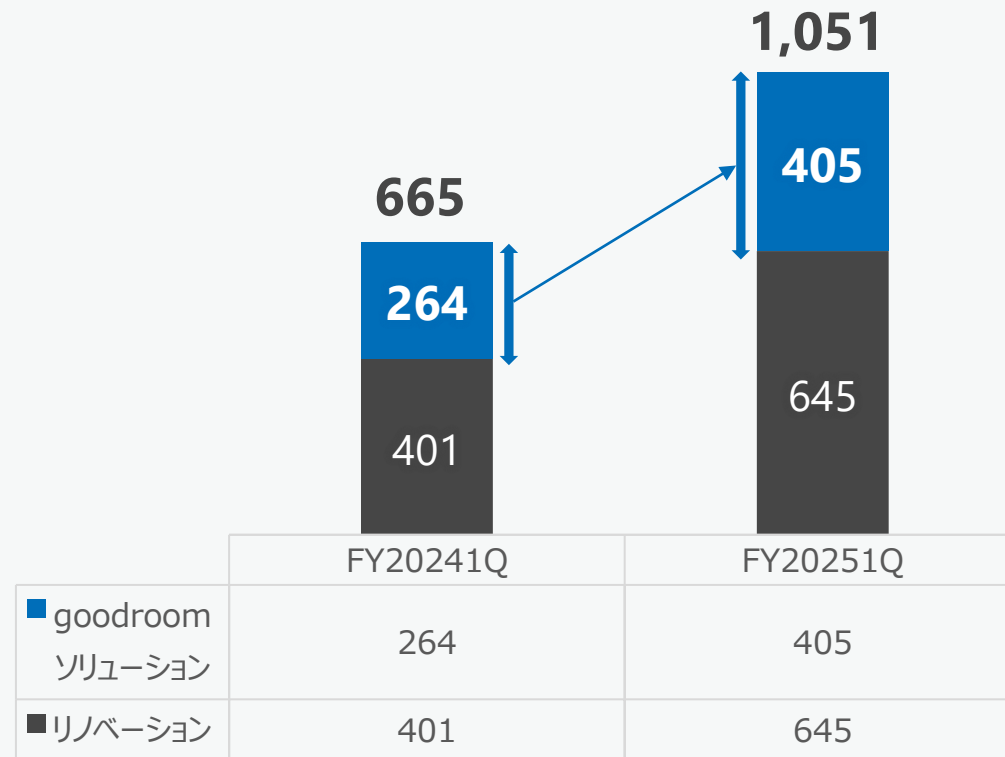


Redxサービスビジネス前期比28.7%増、goodroomソリューションビジネス53.3%増と順調に進捗

IT売上高 (単位：百万円)



暮らし売上高 (単位：百万円)



02

2025年3月期注力事業の方針と実績

■ ITセグメント注力事業_Redxビジネスの方針と実績

- ①Redxコンセプト
- ②Redxビジネス3つの柱
- ③実績／事例

■ 暮らしセグメント注力事業_goodroomソリューションの方針と実績

- ①goodroomソリューション新しい暮らし方／働き方に向けての展開
- ②goodroom residence 2,000室 達成に向けての3つの柱
- ③実績／事例
 - ・ goodroom residence
 - ・ goodroom residence、goodoffice付帯サービス
 - ・ goodoffice & goodroomラウンジ

Redx は、流通小売業界における「店舗共通インフラ」の提供を目指す

Redxは、「クラウドPOS」と「クラウド店舗DX」の2つのサービスの総称。小売業の共通インフラとなるシステムを提供することで、

クライアントの非競争領域であるオペレーションの効率化、システム維持コストの従来比大幅低減の実現

市場のニーズを踏まえRedx標準機能を継続的に追加することで、実質的にカスタマイズをなくし小売業界の課題解決、生産性向上、DX推進に寄与

Redxコンセプトに基づく、Redxサービス導入による付带的価値

カスタマイズレスの追求 標準機能を共通利用

共通利用可能な標準機能の継続提供による、
改修コストの削減

導入企業の競争領域への投資促進

業務効率化・簡素化 店舗のDX推進

Redx標準機能の導入に伴う、
業務改善と店舗DXを推進

ハードウェアの自由選択による、
機器コスト削減

わかりやすく、使いやすい UI/UXの追求

わかりやすいUIを追求、教育コスト削減、
ユーザー体験を最適化

使いやすい操作性により、
属人化を解消

ロフトへの全店導入をベース 専門店／アパレル店に Redx導入	2023年5月		2024年4月～2025年3月
	ロフトへの導入開始※1		専門店 開発&導入（1社） アパレル店 開発&導入（2社）
百貨店向標準を開発 百貨店向導入	2024年3月		2024年4月～2025年3月
	三越伊勢丹システム・ソリューションズと百貨店標準に関わる業務提携※2		1stユーザーに向けて開発&導入 全百貨店に向けて営業開始（10月予定）
商業施設向Redx-NEW PORT （モバイルオーダー） 連携システム共同開発	2018年7月	2023年7月	2024年4月～2025年3月
	三菱地所と資本業務提携※3	スカイファーム株式を三菱地所と共同所有（第三者割当増資33%超保有）※4	東急プラザ原宿・ハラカド（4月）※5 東急Shibuya Sakura Stage（7月）※5 フードコート（レストラン向） Redx-NEW PORT連携システム導入

RedxクラウドPOS初導入、ロフト全店舗への導入展開中※ 1

ロフトの全国展開に向けたRedxクラウドPOSの導入を契機として2025年3月期に新しく専門店、アパレル店向け3社に導入予定

導入実績

導入開始 : 2023年5月～
 導入店舗数 : 40店舗 2年程度で全店導入
 (全店舗の約24%、2024年6月末時点)

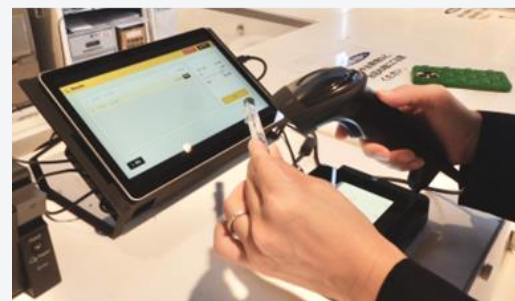


従来大手・大規模な小売店舗で、導入できなかったクラウドPOSの導入を実現した初めての取り組み

ファーストユーザーであるロフトでの運用実績、ノウハウを今後の標準化に適用

(2025年3月期：専門店、アパレル店向け3社に導入予定)

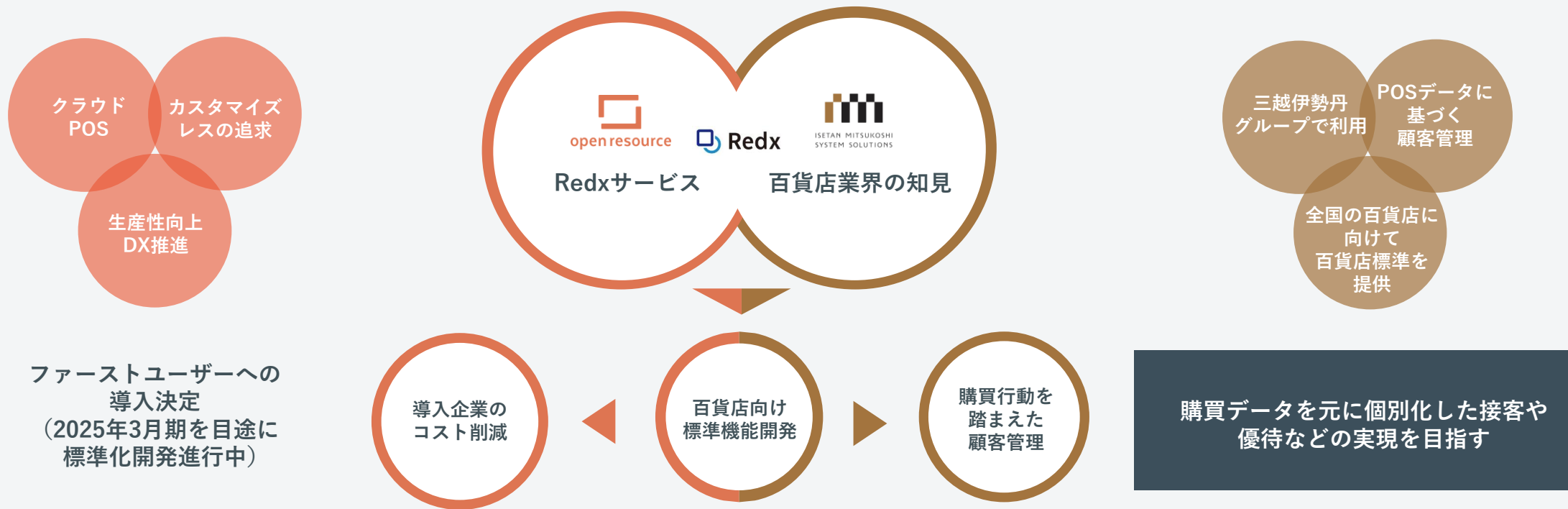
導入企業の業務改善に活用するとともに、導入費用・維持費用の低減化の実現



三越伊勢丹システム・ソリューションズとの“百貨店標準化ソフトウェア共同開発” 及びマーケティングに向けた業務提携※2

百貨店業界最大手の三越伊勢丹グループのグループ会社「三越伊勢丹システム・ソリューションズ」と連携して、
百貨店標準化システム（POS・店舗システム等）の開発・提供を目指す

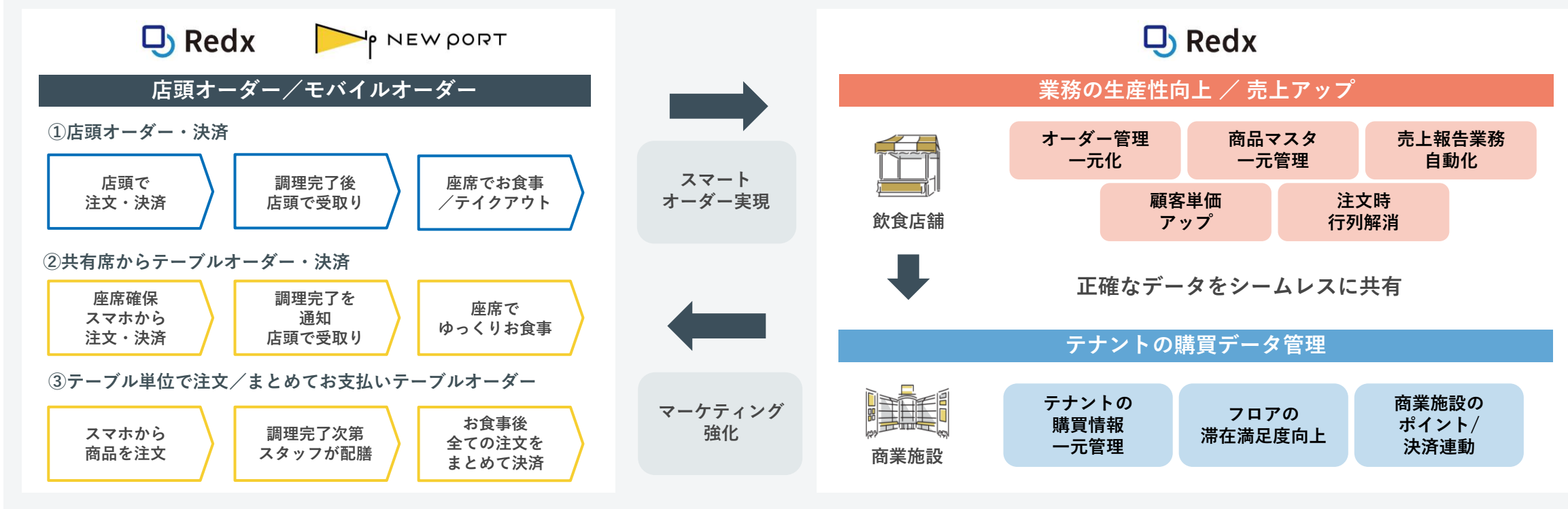
三越伊勢丹システム・ソリューションズとの共同開発



スマートオーダー革命×飲食テナントの業務DX×購買データの一元管理の実現 Redx-NEW PORT連携システムの概要

商業施設のフードコートで新しい飲食体験を提供し、モバイルオーダーとRedxの連携により、データの手入力を削減
データの一元管理を実現することで、商業施設と飲食テナントの業務DXを推進

クラウドPOS「Redx」とモバイルオーダー「NEW PORT」の連携システム概要



クラウドPOS「Redx」とモバイルオーダー「NEW PORT」連携システム導入※5

オンラインで飲食フロアのメニューを横断的にオーダー、個店別処理と商業施設向情報連携ができるSaaS型サービスモデルを提供し横展開
商業施設の顧客戦略にも適用出来るシステムとして展開

2024年4月_東急プラザ原宿「ハラカド」 / 2024年7月_「Shibuya Sakura Stage」へサービス導入

利用顧客のメリット

- ✓ランチタイム：フロア内の座席を確保し、席からモバイルオーダー可能
- ✓ディナータイム：QRコードにて複数のレストランメニューの同時注文可能

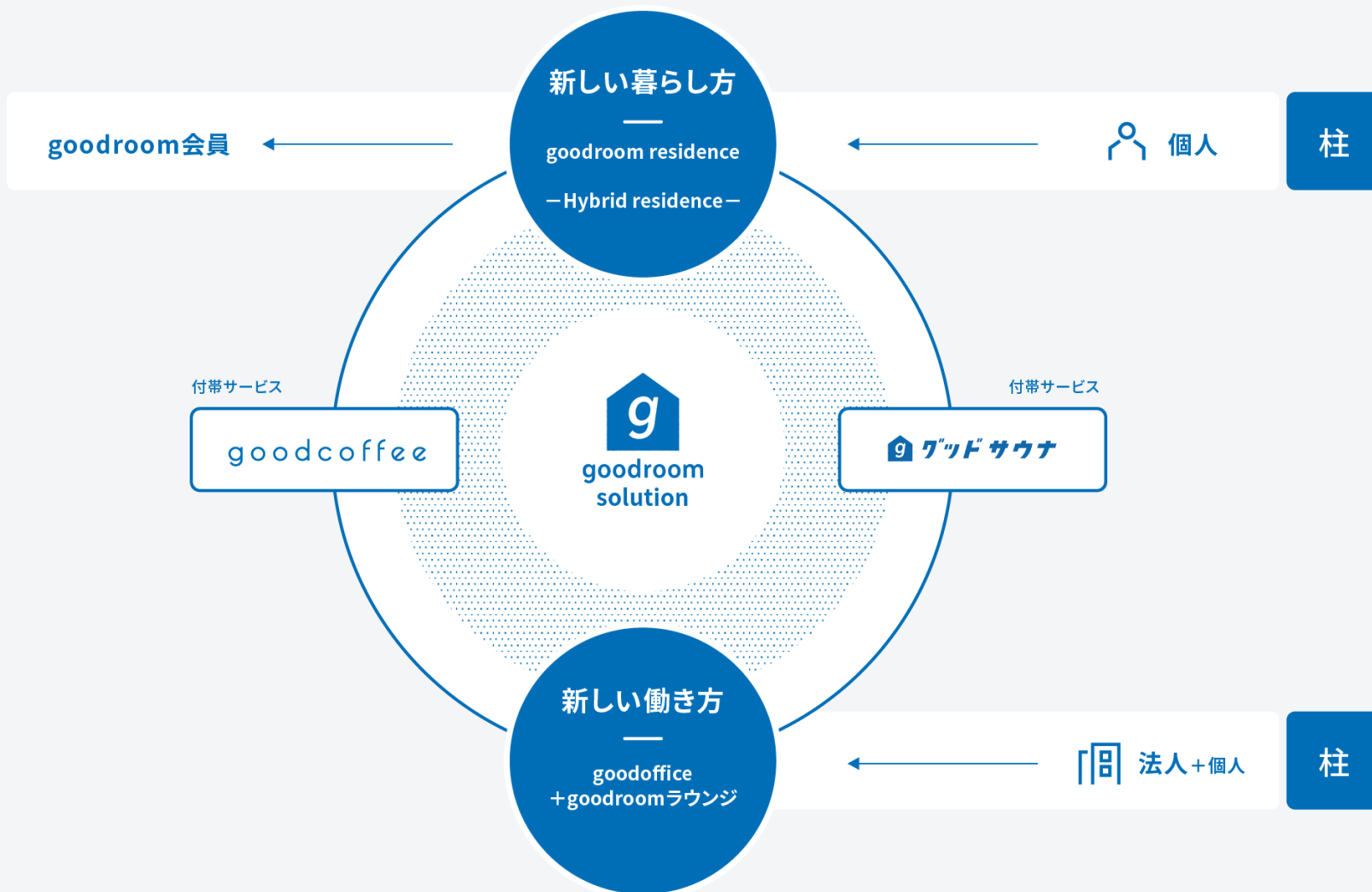
飲食テナントのメリット

- ✓対面決済とモバイル決済を一元管理
- ✓自動連携により商業施設への購買情報報告の正確性向上・事務負担の軽減
- ✓複数ブランド展開時も合算し自動連携可能

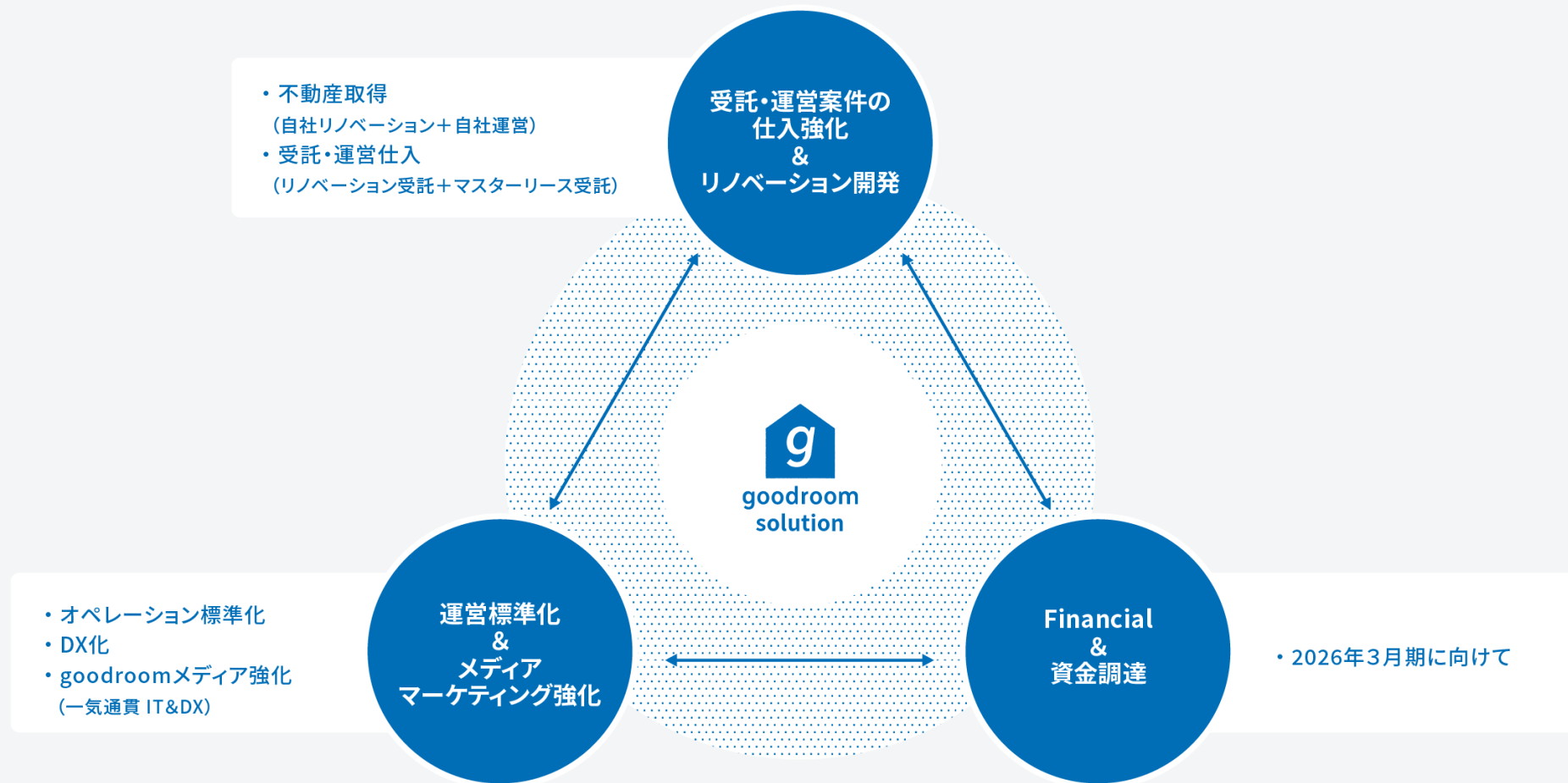
商業施設のメリット

- ✓SC管理システム「MallPro」と自動連携、正確な管理データの日次取得可能
- ✓将来的に顧客IDと購買データを基にしたマーケティング/プロモーション可能





2,000室達成に向けての3つの柱



goodroom residence

2024年3月期末約200室、2025年3月期で約300室、累計約500室、今後3年間で2,000室達成に向けて

2024年3月期まで

2023年4月 goodroom residence学芸大学※ 1

2023年8月 goodroom residence保土ヶ谷※ 2
 (不動産取得)
 良品計画と業務覚書※ 3

上記含め累計約200室

2025年3月期

- 2024年4月 ・ goodroom residence渋谷道玄坂※ 4
 東急不動産と業務連携
- ・ 竹中工務店・信託受益権物件3棟開発開始 (注)
 (リノベーション受託+マスターリース運営)
- ・ 大阪箕輪・不動産取得開発開始 (注)
 (自社リノベーション+自社運営)
- 2024年6月 ・ goodroom residence調布国領※ 5

(注) 第3四半期開業予定

第3四半期までで約300室増設 (累計約500室)

goodroom residence（2024年3月期開業）

学芸大学（全29室）、保土ヶ谷（全55室、良品計画との業務覚書）

居室の他、goodroomラウンジや付帯サービス（カフェやサウナ等）を共用部に併設、新しい暮らし方・働き方を実現

学芸大学（旧：城南信用金庫碑文谷寮）※1

1970年竣工の職員寮を施設の老朽化・寮ニーズが低下により、資産の有効活用のためデザインやイメージを一新
 多様化する暮らし方・働き方のニーズを背景に「新しい暮らし方」としてgoodroom residenceを提案（リノベーションと運営）共用部はワークラウンジ、キッチン・サウナ・カフェ・貸し会議室等を併設



保土ヶ谷（旧：古河電工保土ヶ谷寮）※2

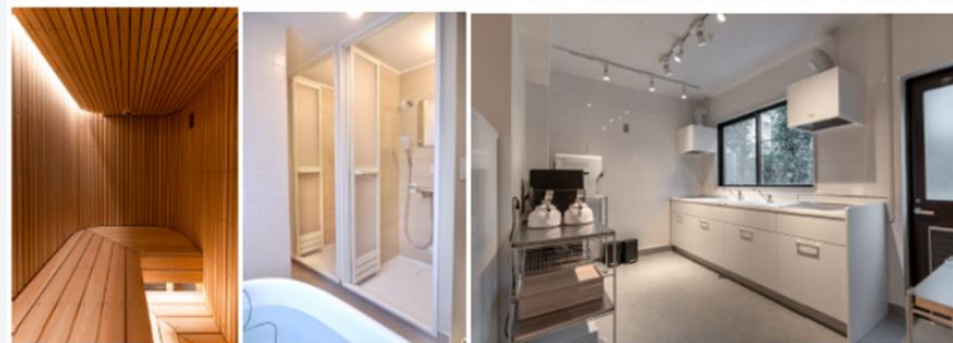
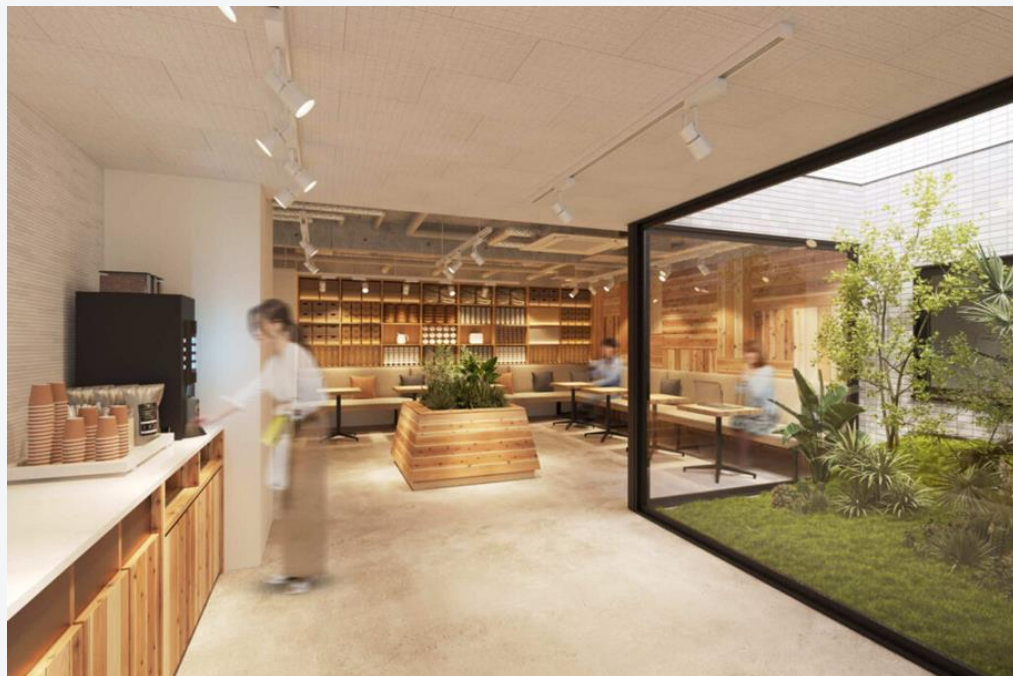
無印良品監修の居室、ワークラウンジなど充実した共用部を持つgoodroom residenceシリーズ第2弾
 内装はオリジナルリノベーションブランド「TOMOS」をベースとした木の素材と無印良品の家具を組み合わせ、快適な居住空間
 共用部はワークラウンジ、キッチン、サウナを併設
 パーソナルスペースと距離を保った共用空間を提供



goodroom residence 良品計画との遊休不動産の有効活用に関して覚書締結

日本国内の遊休不動産不動産のさらなる有効活用等による社会課題の解決への協力について相互連携に関する覚書締結
無印良品監修の居室、goodroomラウンジなど充実した共用部を持つgoodroom residenceを展開

良品計画との遊休不動産の有効活用に関して覚書締結※3



goodroom residence (2025年3月期開業)

渋谷道玄坂 (全9室、東急不動産と業務連携)、調布国領 (全70室、運営レジデンス最大規模)

渋谷道玄坂※4

東急不動産保有の物件をgoodroom residenceにコンバージョンして開業
居室はコンパクトながら、クイーンサイズのベッド、キッチン、
3点ユニットバス等の水回り設備、家具を設置
共用部は入居者専用のテントサウナ (水風呂・外気浴可能)、
シェアラウンジ兼用のワークスペースを併設



調布国領 (旧：学生寮) ※5

1988年竣工の学生寮を寮のニーズの低下により、資産の有効活用のため居室
に水回りを持たなくても済むgoodroom residenceを提案
内装は「TOMOS」をベースとした素材と無印良品の家具の組合せ
共用部はgoodroomラウンジ、シェアキッチン、サウナ、カフェ、アートギャ
ラリーを併設
一般的な賃貸マンション以上に充実した空間を提供



goodroom residence、goodoffice付帯サービス

2023年3月期より新しい暮らし方・働き方を実現する付帯サービス（goodcoffee、グッドサウナ）を開始

goodroom residence及びgoodofficeへ併設

goodcoffee

住まい（goodroom residence）、オフィス（goodoffice）の設置及び運営の経験をもとに、新しい暮らし方・働き方のワンシーンを引き立てる付帯サービスとしてgoodcoffeeを運営

店舗ごとに異なるこだわりのメニューを提供 Coffee Supreme Tokyoの豆を使ったコーヒーやmorethanのパンを使用したフード等も提供



グッドサウナ

住居やオフィス環境だけでなく、暮らし・働くの“となり”に寄り添う付帯サービス施設としてグッドサウナを運営

サウナスペースや、思考をととのえる「くつろぎスペース」、コワーキングスペース等、店舗やエリアごとに違った体験価値を与えられる間取りや内装～照明・音楽といった細部まで空間づくりにこだわった施設



goodoffice & goodroom ラウンジ

新橋（登録有形文化財）、東陽町（竹中工務店所有物件の運用、オフィス運営拠点最大規模）

goodoffice + goodroom ラウンジ + 付帯サービスによる新しい働き方を実現

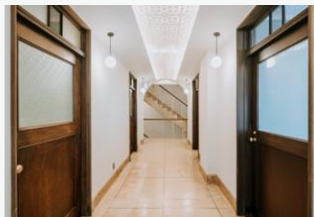
goodoffice新橋（堀ビル）

1932年合資会社堀商店のオフィスとして誕生

角地の立地特性を活かした重厚な正面玄関、水平に窓が連続する特徴的な外観を有し、1998年国の登録有形文化財に登録

2020年10月より、株式会社竹中工務店が借り上げ回収工事実施、歴史ある建物をリノベーションし、イノベーションセンターとしての施設へ変貌

goodoffice新橋としてgoodroomが運営



goodoffice東陽町（東陽町ぐりんたす）

1969年竹中工務店の技術研究所として誕生

新たな交流の場を生み出すべく敷地全体のリノベーションを竹中工務店とともに既存建物の設計・施工に携わる

建物前面に広がる緑地空間を最大限に活かし、カフェ・オフィス・イベント空間を持つ地域に開かれた空間を作り上げている

goodoffice東陽町としてgoodroomが運営



2025年3月期連結業績予想

03

投資を強化・継続しつつ過去最高の売上高及び利益となる業績予想値を設定

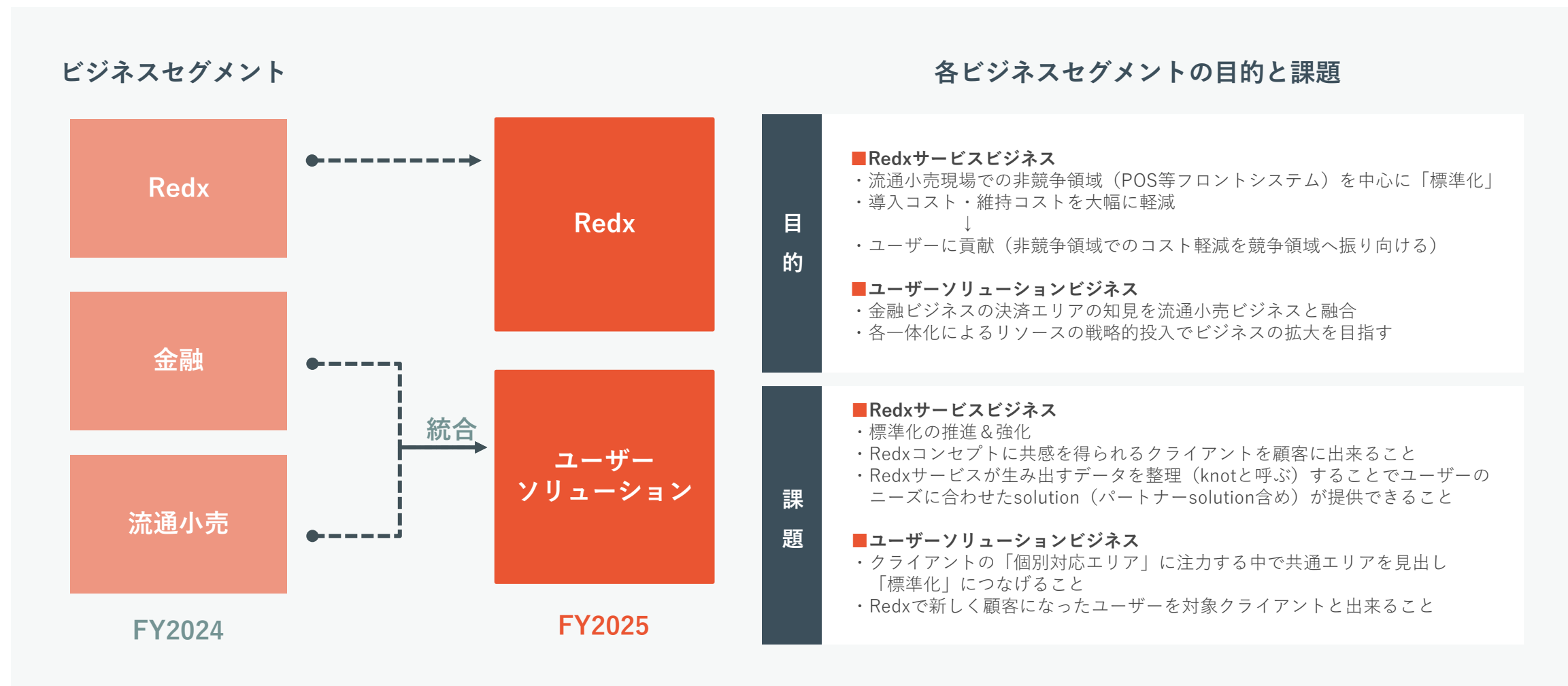
(単位：百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 業績予想	対前期 増減額
売上高	7,449	8,700	+ 1,250
営業利益	502	570	+ 67
経常利益	481	570	+ 88
親会社株主に帰属する当期純利益	300	360	+ 59

04

2025年3月期事業方針

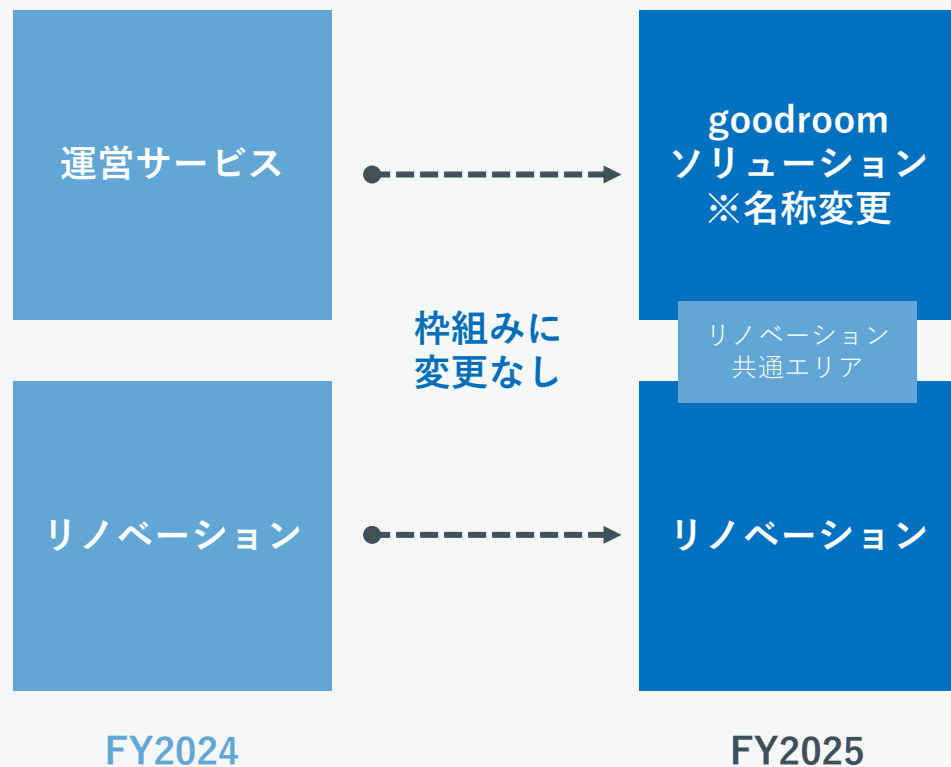
- セグメント別政策
 - ・ITセグメント
 - ・暮らしセグメント
- ストック型ビジネスの実現に向けて
 - ・ITセグメント
 - ・暮らしセグメント

ビジネスセグメント / 各ビジネスセグメントの目的と課題



ビジネスセグメント / 各ビジネスセグメントの目的と課題

ビジネスセグメント



各ビジネスセグメントの目的と課題

目的

■goodroomソリューションビジネス

- ・アセット企画/リノベーション/集客メディア/運営の一気通貫サイクルで標準化を強化・継続すること
- ・集客メディアを更に強化することでgoodroom residenceの拡大(2,000室を目指す)に対応できること

■リノベーションビジネス

- ・TOMOSブランドを使い、「リノベーション(部屋単位)/goodroomメディア/仲介」の一気通貫サイクルで安定的ビジネスを維持すること
- ・goodroomソリューションビジネスが対象としない「共通化」できる大型物件について更に標準化することで利益率向上を図ること

課題

■goodroomソリューションビジネス

- ・goodroomソリューションビジネスにおける大型物件の標準化をリノベーションビジネスと共通化することで一体化を図ること

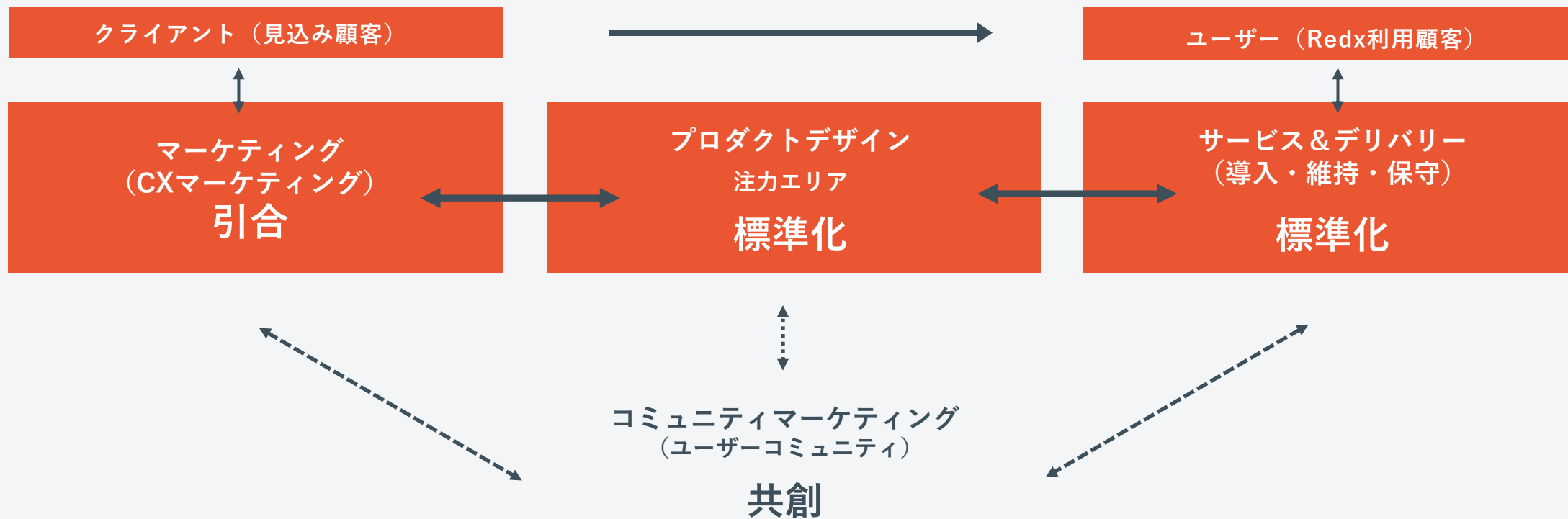
■リノベーションビジネス

- ・大型物件のリノベーションに関し、goodroomsソリューションビジネスとリノベーションビジネスの棲み分けを明確にすることと標準化での一体化を目指すこと

好循環サービス（ストック型ビジネス）の実現に向けて

ストック型ビジネスの目標：今後3年余りで売上比率50%を目指す

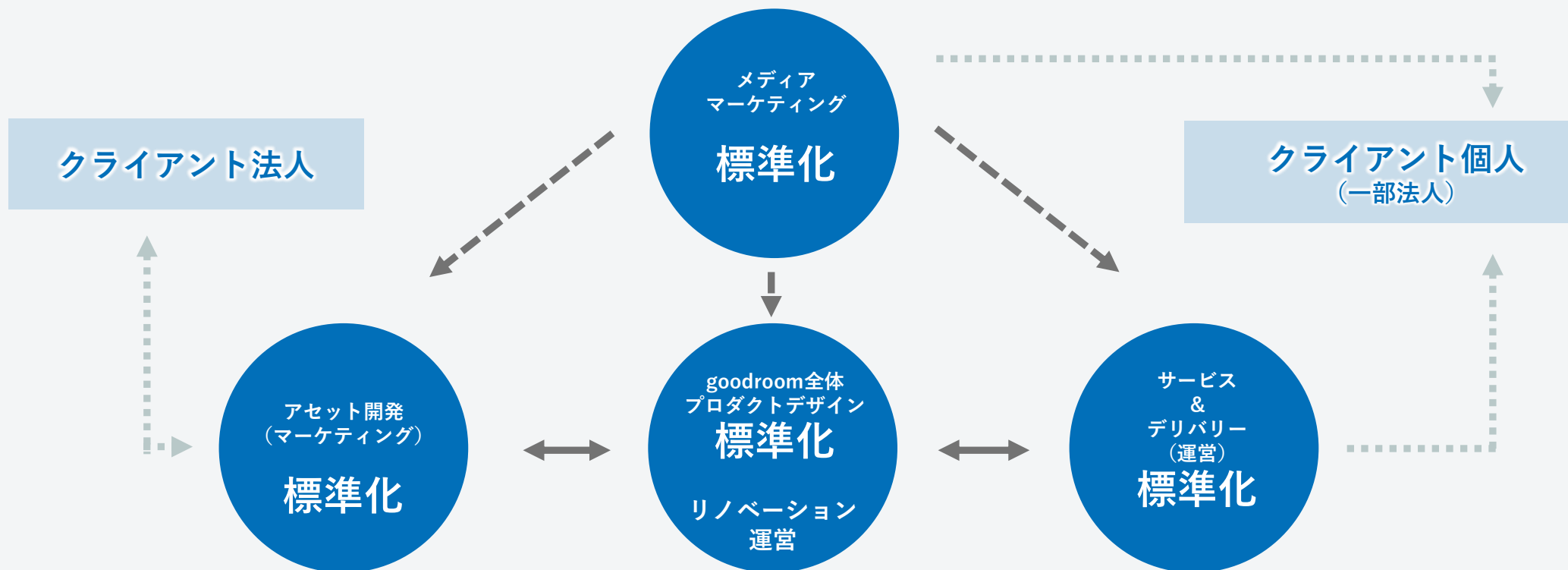
ビジネスの流れを作るための組織構成（Redxサービスビジネス）



ストック型ビジネスの実現に向けて

ストック型ビジネスの目標：今後3年余りで売上比率50%を目指す

ビジネスの流れを作るための組織構成（goodroomソリューションビジネス）



Appendix

05

- コーポレートガバナンス
- 会社アウトライン

配当予想

内部留保の充実を図り事業拡大のための投資を優先しつつも株主の皆さまへの利益還元が可能との判断に至り、2023年3月期より配当を開始
経営基盤の強化と事業拡大のための投資を勘案し、安定的な配当を継続する方針

	年間配当金（円）				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期実績	—	0円00銭	—	2円50銭	2円50銭
2024年3月期実績	—	0円00銭	—	3円00銭	3円00銭
2025年3月期（予想）	—	0円00銭	—	3円00銭	3円00銭

2023年7月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っており、2023年3月期実績は株式分割後の配当金額を記載しております

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況

グロース市場の上場維持基準において【流通株式比率】について2024年3月31日時点において基準に適合していません

計画期間内（2025年3月31日まで）の可能な限り早期に上場維持基準(流通株式比率25%以上)を満たすため、引き続き各種取組みを進めてまいります

流通株式比率向上の具体的な施策については、大株主による売却、事業法人株式の流動化等含めて検討しております

具体的な時期、手法については株価等への影響を勘案したうえで決定次第速やかに公表いたします

	流通株式数 (単位)	流通株式時価総額 (億円)	流通株式比率 (%)	(参考) 3ヶ月平均株価
2023年3月31日	12,807単位	7.3億円	19.0%	576.1円
2024年3月31日	14,671単位	8.5億円	21.6%	580.6円
上場維持基準 (グロース市場)	1,000単位以上	5億円以上	25%以上	-
計画期間	-	-	2025年3月31日 まで	-

2023年7月1日を効力発生として普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っており、2023年3月31日の流通株式数及び3ヶ月平均株価は、株式分割が当該会計年度の期首に行われたと仮定して記載しております

サステナビリティの実現に向けた取り組み










gooddaysグループはミッションに「どこにもないふつう」を掲げ、
情報通信技術を提供する「ITセグメント」、
新しい暮らし方や働き方を提供する「暮らしセグメント」を通じて
社会・地球の持続可能な発展へ貢献いたします
ESGに配慮した経営と事業戦略を通して、
サステナブルな成長と企業価値向上を目指しております
また、国連が定めるSDGsに代表される社会課題の解決等を通じて、
社会・地球の調和のとれた 持続可能な発展に率先して貢献します



サステナビリティの実現に向けた取り組み

サステナビリティに関する課題について、当社グループの経営基盤を支える重要課題と捉え、取り組みを進めて参ります

- ・サステナビリティは社会に対する企業の責任と捉える
- ・企業活動を通じて解決に向けて貢献する
- ・全てのステークホルダーと共に実現可能な社会の実現に向け役割を果たす

	取組項目	主な活動	SDGs関連
	「人」と消費者を含む 全てのステークホルダーとつなぐ	・働き方改革 ・次世代支援 ・消費者を含むコミュニティ支援	 
	持続可能な社会・時代をつなぐ	・気候変動にむけての対応 ・標準化の推進で効率化及びコスト削減	    
	ビジネスリード&リソースリード 人材強化	・心理的安全性環境実現 ・グローバル展開人材の育成 ・多様な働き方を実現する柔軟な人事制度の構築 ・評価・研修プログラムの充実	 

経営理念



- MISSION

どこにもないふつう

- VISION

THE NEXT STANDARD.

- STATEMENT

暮らしとITをかけ合わせ、

この時代にまだなかった「ふつう」を生み出す

業界の常識を疑い、固定概念にとらわれない発想

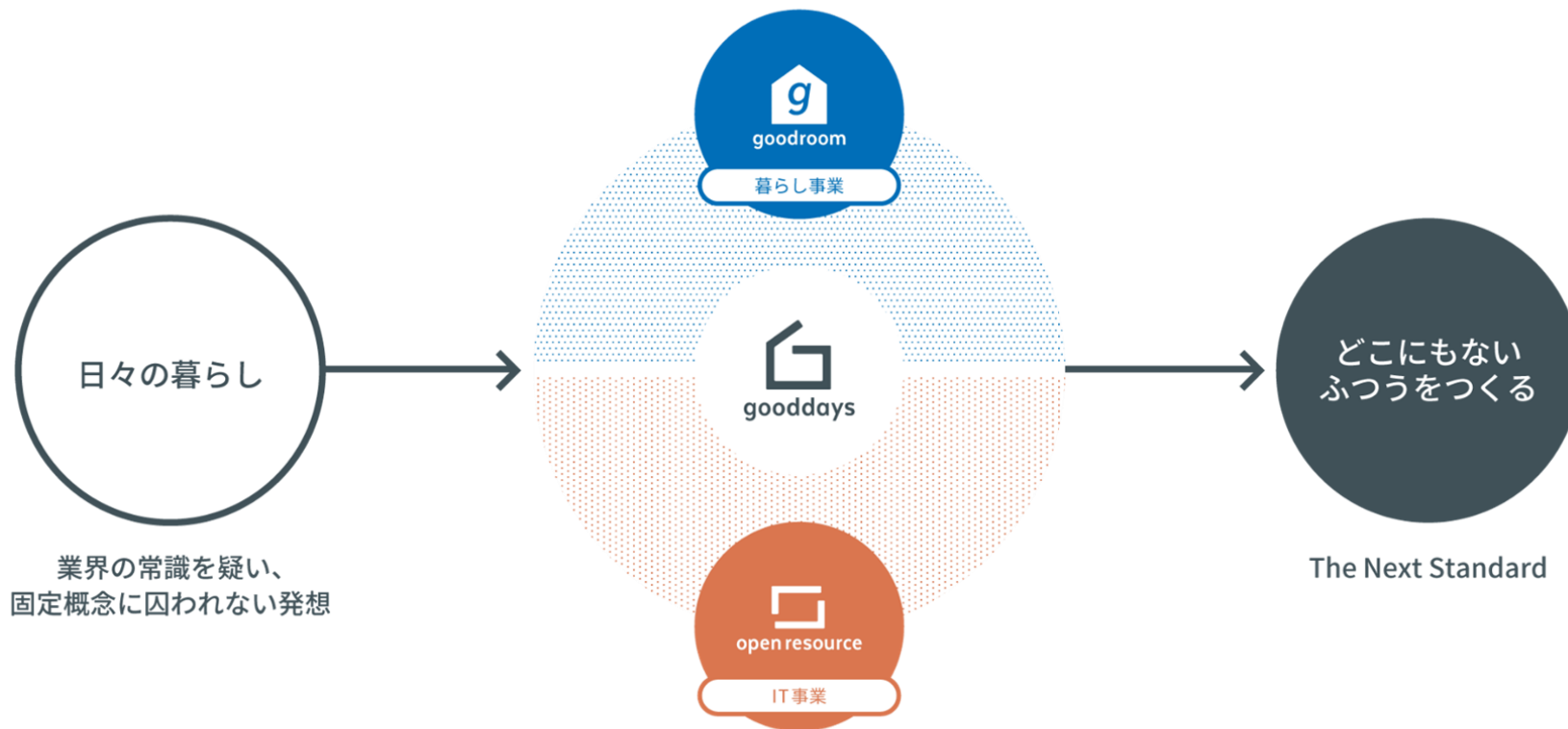
安心感と驚きの共存

そうして、次のスタンダードを生み出していく

今よりちょっといい毎日を、未来のふつうにするために

企業グループ

gooddaysグループは、暮らしとITを掛け合わせて、この時代にまだなかった「ふつう」を生み出す会社です
私たちは常に世の中の常識を疑い、お客様のニーズに合わせたプロダクトやサービスの提供に取り組んでいます

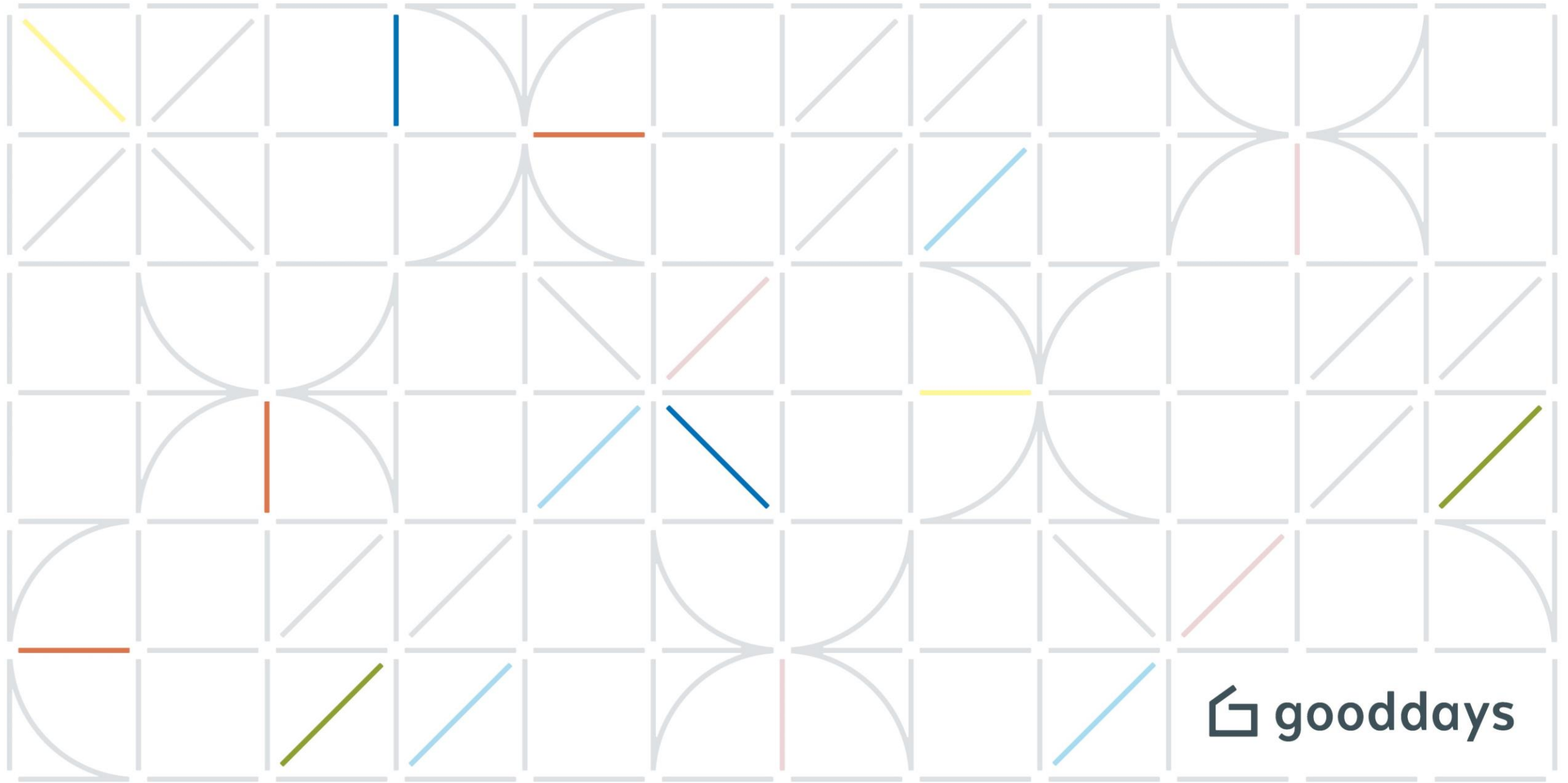


会社概要



社名	gooddaysホールディングス株式会社	
設立	2016年 3月	
従業員数	374名（2024年6月末現在）	
資本金	1億9,778万円（2024年6月末現在）	
本社所在地	東京都品川区北品川1-23-19 goodoffice品川	
役員	小倉 博	代表取締役社長
	小倉 弘之	代表取締役副社長
	横田 真清	取締役 グループ企画本部長
	田所 亮	取締役 グループ人事採用管掌
	菅原 貴弘	社外取締役
	茂田井 純一	社外取締役

本発表において提供される資料並びに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます
これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります
それらのリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます
今後、新しい情報や将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません



 gooddays